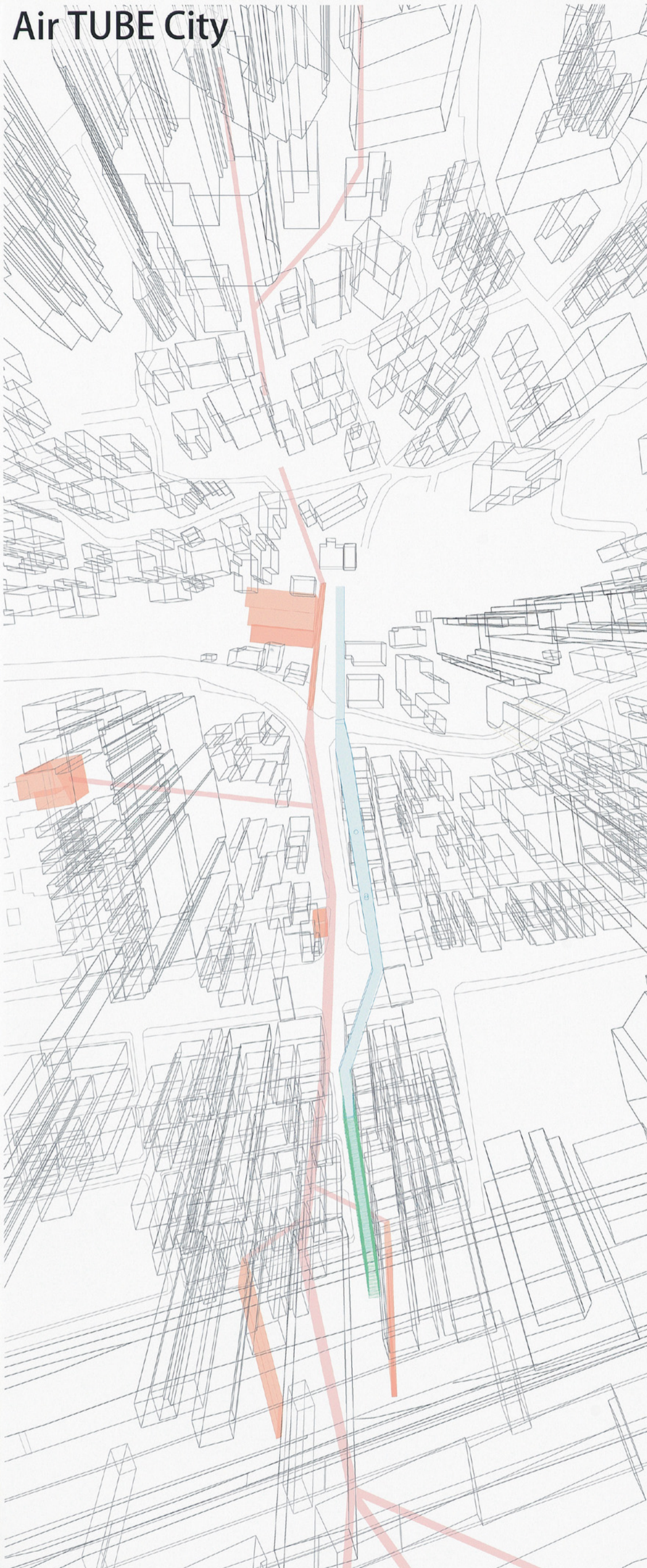
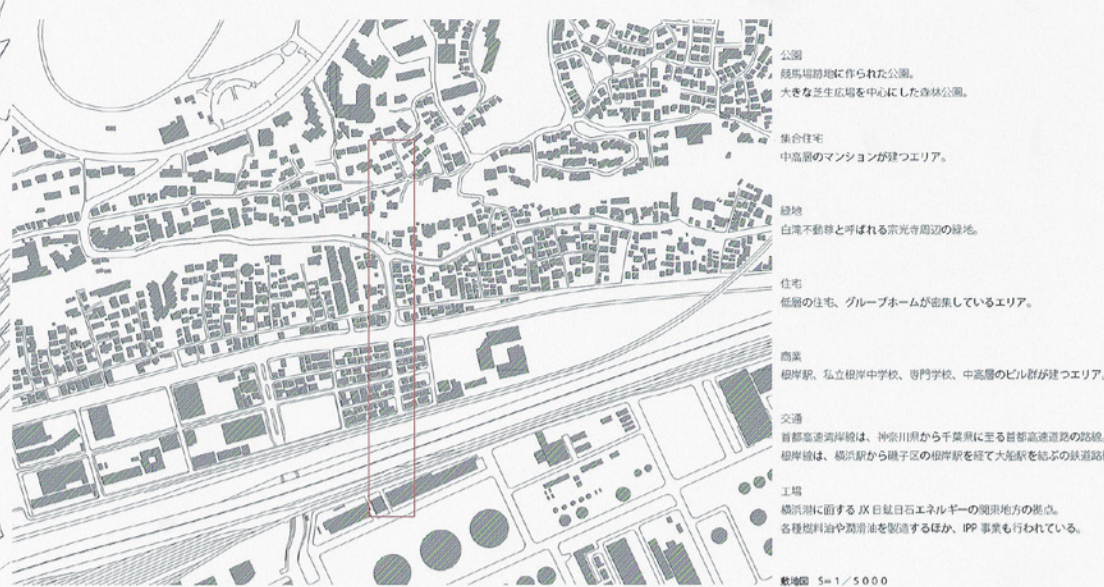


# Air TUBE City



敷地に選定したのは、東京湾と根岸森林公園に挟まれた南斜面である横浜市中区根岸町。海から公園までの高低差は約30mあり、日中は公園から風が吹き、夜は海から風が吹く。根岸町は等高線と水平に用途が配置されている。



- 公園 根岸緑地に作られた公園。大きな芝生広場を中心とした森林公園。
- 集合住宅 中高層のマニションが建つエリア。
- 緑地 白滝不動尊と寺の緑地。
- 住宅 低層の住宅、グループホームが建っているエリア。
- 商業 根岸駅、私立根岸中学校、専門学校、中高層のビルが建つエリア。
- 交通 首都高速湾岸線は、神奈川府から千葉県に至る首都高速道路の路線。根岸緑地は、根岸駅から根岸区役所を経て大船駅までの鉄道沿線。
- 工場 横浜川崎に面するJX日鉱日石エネルギーの製鉄所の敷地。各種燃料油や潤滑油を製造するほか、IPP事業も行われている。

敷地図 5=1/5000

工場、交通、商業、戸建住宅、緑地、集合住宅、公園、それぞれの地の特徴を強調し、空気を媒体にして熱を移動させるチューブを帯と垂直に配置する。夏に冷気を生成する帯、冬に暖気を生成する帯、生成したものを受け取る帯に分ける。それぞれの帯における冷気、暖気の生成方法とその生成された気を効率よく移動させる。帯の役割を決めることで、夏と冬を快適に過ごせるソーラータウン。

10年後20年後の先を考えたチューブは、この街に暮らす人々の生活が豊かになるだけでなく、地域の人とのコミュニケーションを誘発させ、災害時はチューブが避難経路となることを想定し、安心できる街をつくることできる。

敷地図 5=1/5000

